

ちよつと危ない色艶都々逸  
笑って許して！ Part 7  
短冊本



ゆうほ

貴船川床

そうめん流し

絡めとりたい

君の愛

ゆうほ



黄色でホカホカ

香りのお芋

こう門さまの

お通りだ

ゆうほ



焼き栗焼き芋

上手に焼くに

なんでヤキモ子

焦がすのか

ゆうほ



夜も寝ないで

ふたりで仕込み

朝は豆腐屋

ラツパ吹く

ゆうほ



子どもすし屋で

大トロ鉄火

親はハラハラ

カツパ巻き

ゆうほ



デパ地下並んで  
有名スイーツ  
パパの晩飯  
コンビニで

ゆうほ



冷凍物は

レンジでチンと

冷えたおまえは

二回チン

ゆうほ





痩せる食品

ママ通販で

金の工面で

パパ痩せる

ゆうほ



グルメレストラン  
オバサマ占領  
立ち食いそばは

オヤジ族

ゆうほ



泥の中でも

清楚な花を

しかも穴ある

蓮が好き

ゆうほ



男惑わす

薔薇族世界

突起なければ

百合の花

ゆうほ



女ごころは

その日に変わる

しめりや花咲く

紫陽花よ

ゆうほ



荒れた地に咲く

不滅の香り

おもい届けよ

沈丁花

ゆうほ



知らぬふりして

夜桜見よと

いわぬあなたに

じれて拗ね

ゆうほ



今がさかりと  
謎かけしたの  
摘んでほしいと

さくららおく

ゆうほ





はなとわたしのおもいが  
枝がすぎた枝が  
だれて

君に  
触れ

ゆうほ



人肌恋しい

月夜の晩に

さくら花びら

抱いて寝る

ゆうほ



一人写真で

ならない筈が

デジカメ写す

君の影

ゆうほ



お迎え  
最近いが  
最後の花を  
咲かせ飾るか  
わが遺影  
ゆうほ



昔なかつた  
花粉の嵐  
山川海枯れ  
人も枯れ  
ゆうほ



主の御座さぬ処に逃げて  
極楽浄土虚しけり

遊びびと

冥途の旅も三途の川も  
ふたり手を取り 恋道中

ゆうほ



そんなところを知ってるあなた

乳房相まる身八口

遊びびと

君の想いがいづこにあると

心相まる 恋ごころ

ゆうほ



ここかここかと訊ねる主に  
ここもここもと身をよじる

遊びびと

よじり絡まるふたりの先は  
叶い結びで ほどけない

ゆうほ





さっさと一人で寝ようとしたら

主の手が出る足が出る

遊びびど

背中を向けられお手上げだけど

お尻つついて足掻く夜

ゆうほ



この身賭けても惜しくわないが  
 主の心にや誰か居る  
 遊びびと  
 君が居座る私の心  
 どこに隙間がある  
 とうとう  
 ゆうほ



情けないふり振られたふりで  
それで逃げてく狡いひと  
遊びひと  
振っておまえが傷つくよりは  
振られまぬけな色男

ゆうほ



さくらはらはらこの身に積もり

流れる赤い血 染めて行く

遊びびと

赤い血まじわりひとつになれば

切って切れない 赤い糸

ゆうほ



あの世行こうと  
思っているに  
遺産どこだと  
いう家族

ゆうほ



俺の人生  
成功したよ

お前たちこそ

わが遺産

ゆうほ



僅かな遺産

残したために

葬式どころじゃ

ありやせんわ

ゆうほ



慌てふためく  
家族にかわり  
葬式メニユ  
ーの

松竹梅

ゆうほ





高い金だし

貰った戒名

あの世も地位で

勝負かな

ゆうほ



可愛い子孫

何をされよと

崇る先祖が

あるもんか

ゆうほ



死んで泣くなら

生きてるうちに

何かする事

あった筈

ゆうほ



死に際なつて

妻の名違ひ

夫婦喧嘩で

元氣出る

ゆうほ



愛犬葬式

ひと様おなじ

骨あげ初七日

ワンダフル

ゆうほ



おまええゆつくり

俺先に行く

出たところ勝負

冥途旅

ゆうほ



いつの頃より 覚えたお酒

桜ひとひら 添えて呑む

遊びびと

いないあなたの 猪口前置いて  
させばわたしが かわり呑む

ゆうほ



薄墨色の さくらの小道

肩を寄せ合う 花あかり

さくら

肩にかかった その手をとって

胸で感じる 暖かさ

ゆうほ





若景萌えたつ 五月の野山

この身の奥にも 泉湧く

泉探して 奥山はいり

道に迷うか 色の道

遊びびと

ゆうほ



今度とお化けは 出たことないの  
当てにしないで 待ってるわ

さくら

おまえ口だけ べつ甲かんざし  
あたしや口だけ ぬし命

ゆうほ



別れ怖くて 恋などできぬ

酒で流して 凜と立つ

遊びびと

終わりはどんな 姿になろと

恋は恋だよ 悔いもない

ゆうほ



ほんとはほっと しているくせに

顔じゃないんだ 心だよ

さくら

綺麗な花で 毒あるよりは

踏まれ花咲く タンポポよ

ゆうほ



絹の糸より 優しい雨に  
心包んで 別れ酒

遊びびと

繭でつつんで 女になるの  
はきだす糸に 君からめ

ゆうほ



耳も遠いし

目も悪くなり

歯と話さえ

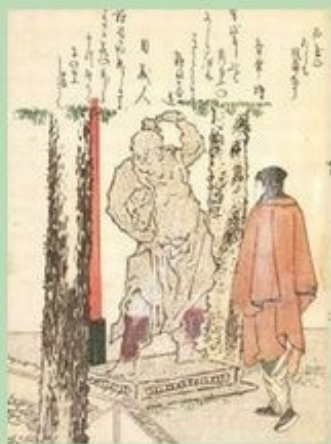
噛みあわぬ

ゆうほ



薄くなるのは  
おいらのオツム  
ついでに薄影  
ただでのる

ゆうほ



賞味期限は

まだまだあるさ

ついでにできた

年変える

ゆうほ





オツム泡立ち

バブルと消えりや

つらい苦勞も

はじけとぶ

ゆうほ



おまえ貰って

籤大当たり

あげまん女房

福の神

ゆうほ



男えらそに

仕事をしても

命育む

事できぬ

ゆうほ



時の流れと  
ある一点で

出会たおまえは

奇跡縁

ゆうほ



先に旅立つ  
あなたをおくり  
むかえはいらぬ  
ひとりいく

ゆうほ



甲羅経たのも

幾年月に

ひとよ夢見た

浮世かな

ゆうほ



植木等じや

はいそれまでヨ

浮世忘れて

冥途旅

ゆうほ



咲いて散るのが この世のさだめ  
笑って受ける 苦い酒

遊びびと

たとえ散ろうと 実なるものさ  
そそぐお酒は 恋しなく

ゆうほ





何も計らず どころん惚れた

そんなこの身が 愛おしく

遊びびと

浮こが沈もが 捨て身の恋さ

おもいのこすな 浮世恋

ゆうほ



憎み怨んで 別れて 帰り

バラの花束 部屋の前

遊びびと

バラでごまかす わけではないが  
口じや言えない 野暮な奴

ゆうほ



そつと手をそえ 蛇の目の傘が  
ぐらり傾く 夜の風

さくら

ふたりでひとつ 蛇の目の猪口を  
させば口元 よいひらく

ゆうほ



のれんをくぐり 抱くよに座る

黙って呑んでる ふたり酒

さくら

肌がしってる ふたりの間

黙って呑んで 潮をまつ

ゆうほ



誰もわけなど 聞いてはくれぬ

肩を寄せ合おう 霧の街

さくら

雨も降らぬに 傘傾けて

隠れ肩寄せ 茶屋のかど

ゆうほ



歳の重ねは 自然のこと

ぬしと重ねる こと忘れ

君にかさなり 骨なるまでは

せめてなりたや 君の傘

リーベ

ゆうほ



絡み睦んだ  
ベッドも今は  
罵り叩く  
レスリング

ゆうほ



根性 甲斐性

ひとつも無くて

浮気性だけ

ある亭主

ゆうほ





うまい食事に  
たっぷり酒を  
夜ごと寝かさず  
精ださす

ゆうほ



良妻あげまん

言われた妻は

悪妻ぶたまん

鬼婆

ゆうほ



定年までは

御苦勞さまと

亭主これから

ひとり主夫

ゆうほ



これがおまえの  
三行半だ  
笑みをかくして

妻  
涙  
ゆうほ



婚活オフ会

カラオケ合コン

歳もサバよみ

若づくり

ゆうほ



ふたり繋がる  
あの赤い糸  
今じゃ毘だと  
思うよな

ゆうほ



子供独立

夫は定年

年金分けりや

別札道

ゆうほ



お互い言い分  
山程あって  
最後のセリフ  
何も無い

ゆうほ





おまえいなけりや  
生きてはいけぬ  
今は一緒じや  
死にそうな  
ゆうほ



男娼おかまと 蔑むなかれ

我らは夜の ナイチンゲール

さくら

おなべおかまは 可愛いけれど

臭い怪しい プリプリチン

ゆうほ



頼朝さんは多情だけれど

政子が怖くてこそこそと

さくら

いいくに作ろと かあちゃんにや勝てぬ  
せめて子作り 他の女

ゆうほ



静御前と 義経さんは  
あまりに一途 哀れなり

さくら

静御前を 鶯谷と  
鶉越で 一気攻め

ゆうほ



抱いてももらえぬ わたくしよりも  
抱けないあなたの 苦しみを  
さくら

抱けと体を 預けていくが  
重量オーバー 手に負えぬ

ゆうほ



心をしつかり 結んでいけば

誰も切れない 細い糸

さくら

色香誘われ 据え膳用意

すまぬすまぬで

糸きれる

ゆうほ



あそこはいいけど 気をつけなさい  
たぬきや化けねこ いるかもね

ここは地獄で 選どりみどり

お菊お岩に 阿部定よ

ゆうほ



夜の帳が けらけら笑う

おいでおいでと 誘蛾灯

さくら

ネオン誘われ 寄り道したら

焼きをいれられ おとしまえ

ゆうほ





山でも海でも 野原の中も

お前いるなら マイホーム

ゆうほ

何処に続くの 見知らぬ里へ

道を示すは 主の愛

遊びびと



恋文写真を 火の中入れりや

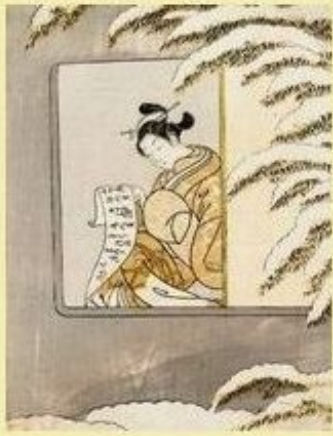
遠い恋火が 身を悶え

ゆうほ

すべて終わって この身をけじめ

なのに残り火 消えぬとは

遊びびと



とりそこなつた あなたの夢も  
捨てずもつてりや またがある

ゆうほ

そんな笑顔に 惹かれて添うて  
悔いは有りやせぬ この先も

遊びびと



愛を吹きかけ 春風乗せりや

タンポポ綿毛 君のもと

ゆうほ

ペナン浮き草 あなたの胸に

カモメ届けよ この想い

遊びびと



悲しみ癒す 人肌なのさ  
懐とびこみや 揺り籠に

ゆうほ

主の温もり この身を融かし  
帰る処を 見失い

遊びびと



君が横いる 只それだけで  
手鍋ひとつも いりやせんわ

ゆうほ

主の傍なら 修羅場も渡る  
決めたあの夜 今もなお

遊びびと



仲を達えぬ 証にしよう

割れ盃を 懐に

別れ怖くて 恋などできぬ

酒で流して 凜と立っ

ゆうほ

遊びびと



色のかわるが 紫陽花だけど  
変わらぬ心 かきつばた

ゆうほ

藍を染めれば 指先蒼く  
主に染まれば 女色

遊びびと





腕によりかけ 得意の料理

恋しい彼と よりもどす

ゆうほ

好みすべてを 頭にきざみ

白いエプロン 台所

遊びびと



目を閉じ耳をすましてごらん

君のところが俺のいえ

ゆうほ

父母の愛とて及ばぬ程に

この身の奥に主の棲む

遊びびと



屋台で落とした  
情熱青春  
君を失くした

恋と夢

ゆうほ



私に見せない  
笑顔を見たら  
君の姿を

見失う

ゆうほ



日照り続きの

となりの後家に

水をやりいく

馬鹿亭主

ゆうほ



ちちくり三日  
浮気は三年  
結婚すれば  
終身刑

ゆうほ



惚れているなら  
何故朝帰る  
事が終われば  
そわそわと

ゆうほ



足癖悪い

突いたり蹴ったり

そんなおまえにや

けりつける

ゆうほ





血の通わない

おまえだけけれど

痴情通って

いるらしい

ゆうほ



恋すりや千里

飛んでもいける

醒めりや横いて

目をつぶる

ゆうほ



どうせ都合の

良い女なの

あなたもたつぷり

都合して

ゆうほ



おまえ命と

何回聞いた

すぐにはじける

シヤボン玉

ゆうほ



夢を買うにも

金いるらしい

先に借金

首輪され

ゆうほ



観音菩薩と

思つて娶り

いつのまにやら

鬼嫁に

ゆうほ



妬む想いに あなたを怨み

逢えない夜の 鬼の面

遊びびと

布団丸めて あなたをつくり

叩いてつねって 抱いて寝る

ゆうほ



女房持ちだど 承知で惚れて  
とことん惚れた 憎いひと

さくら

女房あつても 誠があれば  
妻の座ほしい わけじやない

ゆうほ





情けの重さは 心で測り

義理の重さは 身で測る

さくら

義理は捨てても お前は捨てぬ

情け棹さす なま身なら

ゆうほ



雨に打たれて 咲いてる花の  
なんと艶やか したたかに

遊びびと

夜のとばりに 恥じらい隠し

あさの白露 ポトリ落つ

ゆうほ



嘘をつけない あなたのように

さつきの鯉の 吹流し

さくら

さつきの空に 真鯉と緋鯉

上でからむか こいのぼり

ゆうほ



今夜はゆっくりふたりで呑もう  
来た道行く道 まだ続く

さくら

同じ道行き 寄り道しては  
遅れ謝る 夫婦道

ゆうほ



ぬしの心の色変わらぬか  
日陰で涙 すみれ草

リーベ

根なし竹垣 絡んできては  
朝に微笑む 朝顔か

ゆうほ



あなた恋しい 埋み火あれど  
燃やしてならぬ 由あらば

リーベ

逢えば埋み火 又燃え上がる

逢わなきや心 焙られる

ゆうほ



いつもご覧いただき有難うございます。

## 一覧表

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part1 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/18432>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part2 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/18285>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part3 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/20624>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part4 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/21269>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part5 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/22137>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part6 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/23574>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part7 短冊完結

<http://p.booklog.jp/book/24721>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part8 短冊執筆中

<http://p.booklog.jp/book/25380>

6月1日から P a r t 9 をご覧ください。

<http://p.booklog.jp/book/27137>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸 文章編 執筆中

<http://p.booklog.jp/book/17722>

両本とも毎日更新連載中です。

ゆうほ 5月2日 ペナンの海の上より



ちょっと危ない色艶都々逸笑って許して！ Part 7 短冊本

<http://p.booklog.jp/book/24721>

著者：ゆうほ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/uoboat/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/24721>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/24721>